



「研究拠点形成事業－A. 先端拠点形成型－」



## 説明資料

研究拠点形成事業 －A. 先端拠点形成型－

# 大型動物研究を軸とする 熱帯生物多様性保全研究



京都大学

野生動物研究センター



# 先端性・必要性



アジアゾウ



オランウータン

**熱帯林:**  
**生物多様性の**  
**ホットスポット**

森林開発  
気候変動

**多様性保全が**  
**国際的急務**  
**特に大型動物**  
**(アンブレラ種)**

急速な経済発展

**マレーシア**  
**ブラジル**  
**インド**

絶滅危惧種  
アンブレラ種  
フラッグシップ種

絶滅危惧種  
アンブレラ種  
フラッグシップ種



マレートラ

**大型動物の保全には**  
**長期継続研究**  
**現地研究者育成**  
**生息地型動物観察施設**  
**が不可欠**



アマゾンカワイルカ

## 京都大学 野生動物研究センター

## 霊長類研究所(協力機関)

- ゾウ、キリン、オオカミ、イルカ類、猛禽類、アザラシ、カワウソ、ヤマアラシ、ジャコウネコなど、世界各地で多様な野生動物研究。
- 動物園・水族館と連携(京都市動物園、名古屋港水族館など8園館)。  
=> 飼育・展示専門家の参加・協力
- 日本唯一の**野生動物保全**に関する**共同利用・共同研究拠点**「絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類等)の保全に関する研究拠点」=> **全国の研究者・専門家の参加・協力**
- **COP10国際シンポジウム: 生物多様性と動物園・水族館**(2010年、名古屋)。  
=> **生息地型動物園・水族館 熱帯諸国間の連携**
- 世界各地で**チンパンジー・オランウータン**を初めとする多様な霊長類研究
- 霊長類研究の**共同利用・共同研究拠点**
- 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)。  
**海外の若手研究者トレーニング**にも実績。
- **国際共同先端研究センター**

# 実施体制

霊長類学の蓄積  
先端研究技術  
英語で学位取得可  
(グローバル30)

日本  
京都大学  
野生動物研究センター  
霊長類研究所

共同利用・共同研究拠点  
動物園・水族館との連携  
大型動物研究の拠点

対等な関係による  
共同研究と研究者交流

大型動物(アンブレラ種)の研究  
日本での研修とセミナー  
国際ワークショップ  
自然生息地に直結した  
動物観察施設整備

インド  
インド科学大学  
生態科学センター

ブラジル  
国立アマゾン研究所



アジアゾウ



トラ



マレーバク



アマゾンカワイルカ



オランウータン

マレーシア  
マレーシア・サバ大学  
熱帯生物学保全研究所  
マレーシア科学大学、サバ財団、プラウバンディング財団、オランウータン島財団



熱帯生物多様性保全に関する研究教育国際協力ネットワーク

=> 国際生物多様性保全センター、熱帯生物多様性保全プラットフォームへ



# 自然生息地に直結した動物観察施設： オランウータン野生復帰事業（マレーシア）

自然環境に適応させ、適応の程度を確認する必要



マレー半島、湖の小島

要請により、3個体を放して、行動・生態調査中



ベラム・テメンゴール森林  
マレー半島最古の森  
生物多様性ホットスポット



研究・教育・エコツーリズム  
先住民福祉にも有用

より大きな島を利用する予定

EMKEYグループ（収益の1割を社会還元）、サバ財団など、地元企業・財団の協力  
航空券は京都大学側が負担、滞在費は先方が負担

環境の要・シンボルとなる  
大型動物の研究  
現地専門家育成

多様性保全・環境保全の  
拠点・実践モデル  
専門家の職場

**理想の動物園・水族館**  
: 自然生息地に直結した動物観察施設

- 多様性保全: 野生復帰事業に不可欠
- 動物福祉: 本来の生息環境に限りなく近い
- 研究・教育: 本来の姿や振る舞いを身近で観察できる
- 地域経済: エコツーリズムに貢献
- 環境保全: 森林伐採から観光・教育・保全産業へ
- 住民福祉: 伝統的知識・能力を活用できる新たな職場



## アマゾン水族館 フィールド博物館

マナティーなど水生哺乳類を初めとする  
大型動物の研究と教育、野生復帰、  
エコツーリズムのための施設。  
ペトロブラス、アリアウリゾート、エコパー  
ク等、地元企業の協力



INDIAN INSTITUTE OF SCIENCE  
Bangalore, India

भारतीय विज्ञान संस्थान  
बैंगलूर, भारत

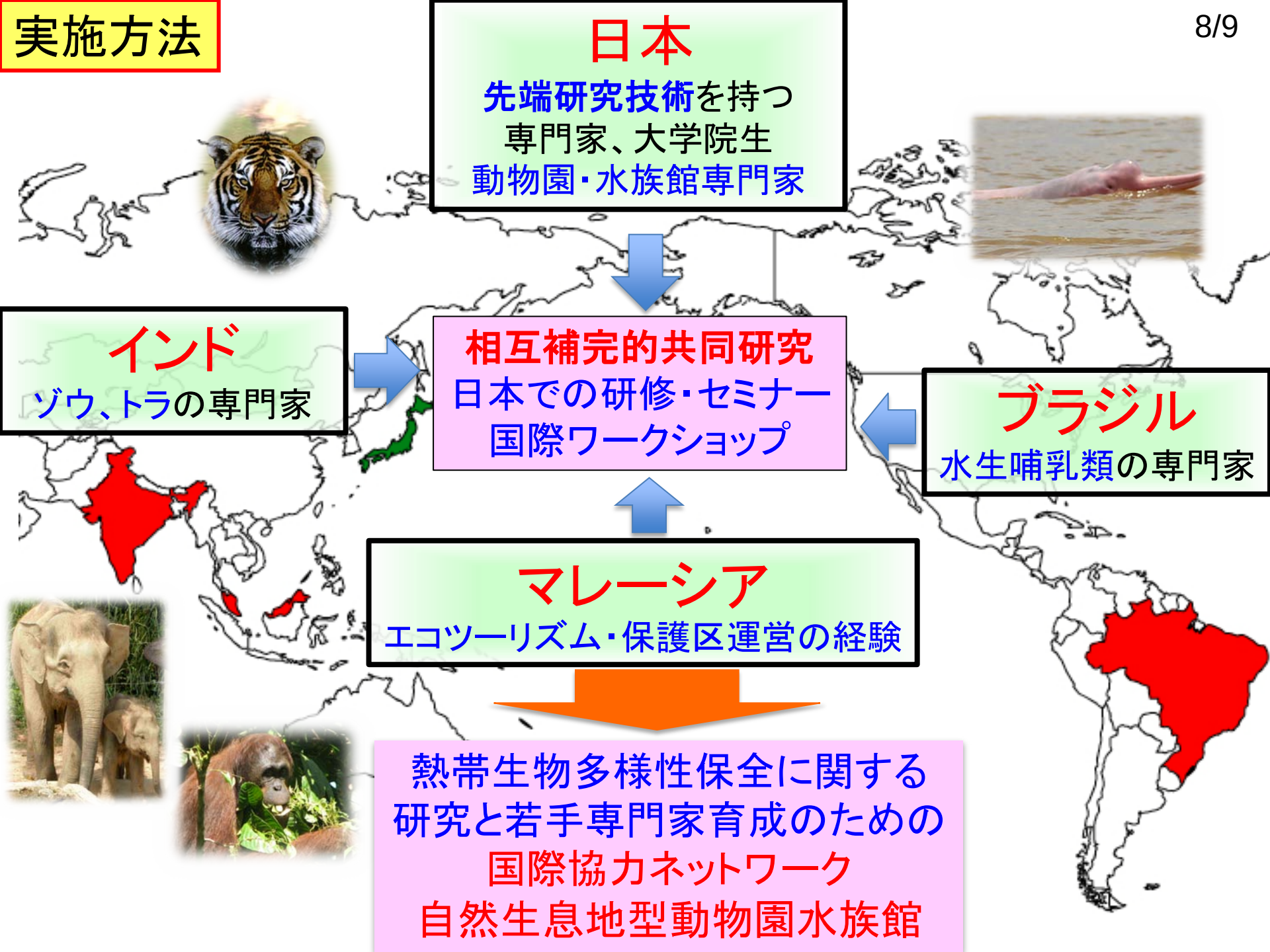
## アジアゾウ施設 フィールド博物館

アジアゾウなどの研究と教育、野生復帰  
、エコツーリズムのための施設。  
ニルギリ・バイオスフェア・リザーブ、  
インド科学技術省、環境森林省の協力





# 実施方法





終了時の構想:

# 4国に熱帯生物多様性保全研究に関する機能的ハブ構築 多様性保全・研究・教育拠点としての生息地型動物観察施設



# マレーシア拠点機関・協力機関

参考資料1

## マレー半島



### マレーシア科学大学(協力)

ペナン市にある23学部を持つ総合国立大学。学生数約21000人。

生態学で高い評価。

2011年2月にMoU締結。



### プラウバンディング財団(協力)

マレー半島最古の森、**ベラム・テメンゴール森林**の保全・研究・持続利用のために設立。**熱帯雨林研究センター**を持つ。EMKAYグループ



### オランウータン島財団(協力)

保護されたオランウータンの野生復帰のために設立。EMKAYグループ

2010年8月にMoU締結。

## ボルネオ島



### マレーシア・サバ大学(拠点)

コタキナバル市にあるサバ州随一の国立大学。**熱帯生物学保全研究所**を持つ。生態学で高い評価。

2010年1月にMoU締結。



コーディネーター

アブドウル・ハミド

所長／准教授

スマトラサイなどの研究保全

オランウータン、シベット、ヤマアラシ、カワウソ  
テングザルなどに関する共同研究中。



### サバ財団(協力)

サバ州熱帯林の保全・研究・持続的  
利用のために、州法により設立

**3つの自然保護区を管理・運営**

2011年6月にMoU締結。

# ブラジル拠点機関



## 国立アマゾン研究所

マナウス市にある

50年以上の歴史をもつ国立研究所。

研究者230名。大学院生約500名。

アマゾン研究、特に生物学で高い評価。

2012年3月にMoU締結予定。



コーディネーター  
ヴェラ・ダシルバ  
教授

アマゾンカワイルカ、  
マナティーなど、水生  
哺乳類の専門家。  
カワイルカなどの共  
同研究中

# インド拠点機関 参考資料2



INDIAN INSTITUTE OF SCIENCE  
Bangalore, India

भारतीय विज्ञान संस्थान  
बैंगलूर, भारत

## インド科学大学

バンガロール市にある

インド屈指の理系大学院大学。

2000名以上の研究者。

生態学で評価の高い生態科学センターと

2012年6月にMoU締結予定。



コーディネーター  
ラマン・スクマール  
教授／センター長

アジアゾウ研究の  
世界的権威。  
国際コスモス賞など  
を受賞。アジアゾウ、  
ドールの共同研究中



# 相手国側マッチングファンド獲得状況・獲得見込み参考資料3

## マレーシア



UNIVERSITI MALAYSIA SABAH  
Institut Biologi Tropika dan Pemuliharaan

Ref. Kami :

Tarikh : 24 December 2011

Japan Society for the Promotion of Science  
C/o Prof. Shiro Kohshima  
Wildlife Research Center of Kyoto University  
Kyoto 606-8203, JAPAN

To whom it may concern:

It is our pleasure to confirm that the Institute for Tropical Biology and Conservation supports the research opportunities provided by the "International Network for Tropical Biodiversity Conservation focusing on the studies on Large Animals" project.

We are confident that this project, if funded, will make a significant contribution to the field by promoting collaborative interaction in wildlife research, and that Professor Shiro Kohshima will provide the ideal leadership for this initiative.

Sincerely,

Dr. Abdul Hamid Ahmad  
Director

Institute for Tropical Biology and Conservation,  
Universiti Malaysia Sabah,  
UR 2073, 88999 Kota Kinabalu, Sabah, MALAYSIA

マレーシアサバ大学  
熱帯生物学保全研究所  
所長からのサポートレター

BERTEKAD CEMERLANG

## ブラジル



Manaus, December 20, 2011.

To whom it may concern:

It is our pleasure to confirm that the National Institute for Amazon Research (INPA) supports the research opportunities provided by the "International Network for Tropical Biodiversity Conservation focusing on the studies on Large Animals" project.

We are confident that this project, if funded, will make a significant contribution to the field by promoting collaborative interaction in wildlife research, and that Professor Shiro Kohshima will provide the ideal leadership for this initiative.

Sincerely,

ADALBERTO LUIS VAL, Director  
National Institute for Amazon Research - INPA

国立アマゾン研究所  
所長からのサポートレター



Ministério da  
Ciência e Tecnologia



Gabinete do Diretor, Av. André Araújo, 2936 - Alípio - CEP 69060-001 - Fone (93) 3642-3353, MANAUS-AM, BRASIL. <http://inpa.gov.br> e-mail: [secret@inpa.gov.br](mailto:secret@inpa.gov.br)

マナティー、アマゾンカワイルカなど水生哺乳類保全に対する助成金獲得済み。若手国際交流に対する助成金申請予定。今年10月に「パターン2」で国際ワークショップを予定。

## インド



2012/01/18

Japan Society for the Promotion of Science  
C/o Prof. Shiro Kohshima  
Wildlife Research Center of Kyoto University  
Kyoto 606-8203, JAPAN

To whom it may concern:

It is our pleasure to confirm that the Centre for Ecological Sciences Research (INPA) supports the research opportunities provided by the "International Network for Tropical Biodiversity Conservation focusing on the studies on Large Animals" project.

We are confident that this project, if funded, will make a significant contribution to the field by promoting collaborative interaction in wildlife research, and that Professor Shiro Kohshima will provide the ideal leadership for this initiative.

Sincerely,

Chairman/ Professor: Raman SUKUMAR  
Centre for Ecological Sciences  
Indian Institute of Science  
Bangalore 560012  
India

PROF. R. SUKUMAR  
CHAIRMAN  
CENTRE FOR ECOLOGICAL SCIENCE  
INDIAN INSTITUTE OF SCIENCE  
BANGALORE - 560 012, INDIA

インド科学大学  
生態科学センター長  
からのサポートレター

アジアゾウ研究保全、ニルギリ保護区保全に対する助成金獲得済み。

# 研究交流計画：大型動物研究を軸とする熱帯生物多様性保全研究

参考資料4

|       | H.24                               | H.25        | H.26           | H.27           | H.28       |
|-------|------------------------------------|-------------|----------------|----------------|------------|
| マレーシア |                                    |             |                |                |            |
|       | オランウータン、ジャコウネコ、カワウソ等の生態・保全研究（ボルネオ） |             |                |                |            |
|       |                                    |             |                |                |            |
|       |                                    | 国際WS<br>ペナン |                | 国際WS<br>コタキナバル |            |
| ブラジル  |                                    |             |                |                |            |
|       | アマゾンカワイルカ、コビトイルカ、マナティー等の行動・生態・保全研究 |             |                |                |            |
|       | 国際WS<br>マナウス                       |             |                |                |            |
| インド   |                                    |             |                |                |            |
|       | アジアゾウ、ドール等の行動・生態・保全研究              |             |                |                |            |
|       |                                    |             | 国際WS<br>バンガロール |                |            |
| 日本    |                                    |             |                |                | 国際WS<br>京都 |
|       | 相手国若手研究者の研修・共同研究                   |             |                |                |            |
|       | 学術セミナー（京都と犬山で交互に開催）                |             |                |                |            |
|       | 大学院教育に相手国での野外研究・研修を導入・京大での学位取得サポート |             |                |                |            |

日本側

大学院生  
若手研究者

相手国での共同研究と  
野外実践経験



野生動物研究に関する  
国際協力ネットワーク

理想の動物園・水族館

専門家育成



自国での共同研究と  
日本での研修・共同研究

相手国側  
大学院生  
若手研究者

## 京都大学 野生動物研究センター

- 日本唯一の野生動物保全に関する  
全国共同利用・共同研究拠点
  - 国内外に研究拠点（屋久島、幸島など4カ所、アフリカ：7、アジア：1）
  - 動物園・水族館と連携（京都市動物園、名古屋港水族館など8園館）
- ⇒ 研修、共同研究の場

## 京都大学 霊長類研究所

- 霊長類研究に関する  
全国共同利用・共同研究拠点
- アジアの若手研究者トレーニングに実績（2010年：30名）  
霊長類学は日本発の学問  
⇒ 日本に学ぶニーズが高い
- 国際共同先端研究センター  
国際化支援（外国人教員、英語事務）

グローバル30：国際霊長類学・野生動物コース（英語で学位取得可能）

若手研究者育成のためのネットワーク

熱帯生物多様性保全に関する国際研究協力ネットワーク

アフリカ、インドネシア  
温帯・寒帯に拡大

⇒ 国際生物多様性保全センター、熱帯生物多様性保全プラットフォームへ